

## 日本木材青壮年団体連合会 第63回全国会員東京大会開催 Wood Legacy ～木の文化を全国の都市景観へ～

三幸林産株式会社

馬田 勝之

### 30年ぶりの東京開催

2018年5月12日(土)日本木材青壮年団体連合会 第63回全国会員東京大会式典が30年ぶりに東京の地、よみうりホールで開催されました。

日本木材青壮年団体連合会とは、日本全国の木材関係業者からなる若手経営者の集まりで、同じ世代の木材人として交流を深め、木材界の発展のため活動をしている団体です。

その東京地区を新木場主体の若手経営者で組織する、東京木材青年クラブが担っており、今回の準備を1年以上前から行ってきました。全国の会長、専務理事、大会実行委員長を輩出し、その他多数の出向者が全国各地を回り、当日の参加を呼びかけました。おかげさまで約700名の参加を頂き盛大に開催することが出来ました。

オープニングの第一声は、東京木材青年クラブ代表幹事の初和彦さんが声高らかに開会宣言いたしました。緊張感のある中、キリッと締まる開会宣言でした。

今回の司会には第3代2017年「ミス日本みどりの女神」野中葵さんをお願いいたしました。一緒に司会進行を務めたのは市川大介さんです。野中さんは容姿端麗で才色兼備、みどりの女神の称号がピッタリな女性です。打合せの際も前向きに質問されていました。市川さんとのコンビもバッチリで、市川さんの男らしい低音ボイスと野中さんの可愛らしい声が、安心感と場を和ませる雰囲気になっていたと思います。

2017年度 荒井浩会長から歓迎の挨拶では、スローガン「Wood Legacy ～木の文化を全国の都市景観へ～」のもとSNSを活用したイベントの開催などウッドファンを増やすことに重点をおいた活動を紹介されました。

式典では、齋藤健農林水産大臣からの祝辞を沖修司林野庁長官に代読いただきました。日本木青連の活動に対して「木材の良さ、利用推進に熱心に取り組んでいる」と評されました。その他の来賓からもご祝辞を頂戴し、吉条良明(一社)全国木材組合連合会会長からは「建築基準法の改正や、都市部の規制緩和」など今後の木材活用の広がりを感じました。

木工工作コンクールは応募総数25,220点の中から22作品が入賞致しました。どれも力作揃いで、大野正人審査委員長は「作者に会うのを楽しみにしていました。これまでにない、木の割れや節を活かしたものがあり、一つ一つのパーツも丁寧に作られています」と講評されていました。

木材活用コンクールでは、170作品の応募をいただき、20作品が入賞しました。木造と鉄骨造の7階建てやCLTと大断面の建物など、公共建築物をはじめ木材が多く活かされた作品が受賞し、建築デザインやインテリアにも木材を積極的に利用される建築士がさらに増えることが期待されます。

引継ぎ式では次期開催地、愛知が発表され、戦後からの旺盛な復興需要と現代のスピード感重視の経済とのギャップを感じる歴史観のあるPR映像が流れました。2018年度 鈴木興太郎会長挨拶では「ONE STEP AHEAD 新たな一歩」 チャレンジを恐れず、より良い形に変化出来る事業を行う決意表明がされました。

閉会の後、フリーパレット集客施設研究所 代表 藤村正宏氏による記念講演「SNS消費時代のモノの売り方『3つのF』が価値になる」が行われました。講演内容については運営が忙しく拝聴できませんでした。書籍など多数出版されていらっしゃいますので、ご購入なさってみてください。講演は大変好評でした。



日本木材青壮年団体連合会 第63回全国会員東京大会 式典風景



日本木材青壮年団体連合会 荒井 浩会長



日本木材青壮年団体連合会  
青木 慶一郎全国大会実行委員長

## 懇親会

いよいよ帝国ホテルでの大懇親会を迎えることになりました。

会場は帝国ホテル孔雀の間。豪華さと広さに加え、料理の良い匂い、氷の彫刻や花の美しさ。30年ぶりということもあり、決死の覚悟で抑えた会場であり、最大のおもてなしであります。

司会は私、馬田勝之が担当し、式典に引き続き「みどりの女神」野中葵さんにご協力いただきました。野中さんはスーツからドレスに着替え懇親会に花を添えられました。



懇親会の司会を務めた筆者と  
「ミス日本みどりの女神」野中 葵さん

歓迎の挨拶は青木慶一郎大会実行委員長。ご来場いただいたことに感謝するとともに、1年間準備に追われ、毎月会議をしてPRするために全国を飛び回り、直前まで仲間でパンフレットの袋詰めや、お土産の「きえすぎくん」「社名入り 木製ピンバッチ」などの製作をしてきたことを紹介していました。

懇親会では、さすがにお料理の評判は抜群でした。東京ならではの江戸前寿司、すき焼き、日本そば、そして帝国ホテル自慢のローストビーフをたっぷりご堪能いただきました。あえて有名人は呼ばず、ジャズの演奏が心地よく流れる中、全国の仲間は楽しそうに交流をはかれていたようです。

アトラクションは手作りビールの抽選会です。我々が茨城県の常陸野ビールで有名な木内酒造さんで作った、2種類のビール作りの映像を流し、抽選券を配布いたしました。ホワイトビールとブラックビールを作ったのですが、日程の都合上、参加者全員分を作れませんでした。当たった方も当日は飲むことが出来ませんでした。飲んだ感想を伺うと高評価でした。瓶のラベルは、飾り板イラストで評判の向殿長敏さんにお任せしました。

こうして30年ぶりの東京開催を無事終えることが出来ました。

参加者数、予算、会場、構成など難しい作業を仲間と乗り切ったことは今後の糧となると思います。63年前から今回、そして未来まで「木材」という素材を通して、日本全国の交流が続いていきます。これからも皆様のご支援ご指導をお願い申し上げます。私も微力ながら業界に貢献していきたいと思っています。



アトラクション・手作りビールの  
瓶のイラスト担当、専務理事を務めた  
向殿 長敏さん



日本木材青壮年団体連合会の仲間達



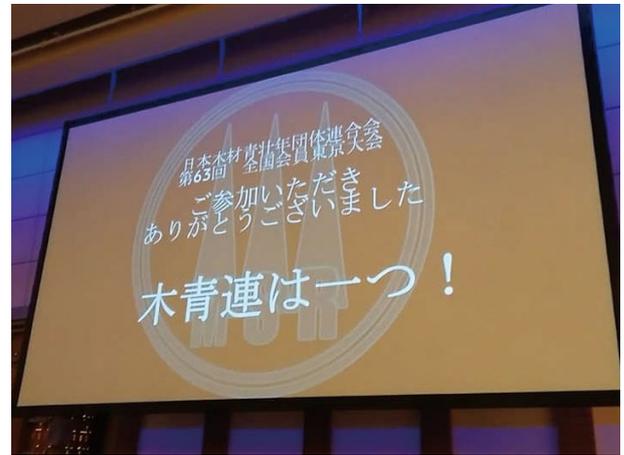
東京木材青年クラブメンバー



大懇親会、宴もたけなわになり、荒井会長を胴上げされる



手締め



一致団結した大会は無事に終了



次回の開催は、2019年6月22日（土）「第64回全国会員愛知大会」